

水稲に代わる高生産性品目の導入

要約

水田では水稲主体の営農が大半を占めているが、米価の下落により生産意欲が減退し、水田の遊休農地化が懸念されている。水田を活用し水稲に代わる生産性が高い品目を選定し提案することで、水田の遊休農地化の抑制に資する。

現状(背景)と課題

- 水稲に代わる有望品種の選定

目標

- 有望品種の選定
平成27年度：1品目

活動内容

- 先進地視察 1回 →アスパラガスについて情報収集のため先進地（広島）を視察。女性や高齢の農業者による生産が可能で、長期間安定した所得が見込めることを確認。
- 展示圃設置 1箇所 →ブロッコリーについて地域適応性について確認。
- 現地指導 14回 →機械移植、生育状況や病害虫発生状況への対応、適期収穫について指導。
- 経営評価 1回 →ブロッコリーについて収益、費用及び労働時間を評価した。

成果

- ブロッコリーは栽培について地域適応性があり収益性も高いことから有望品目として選定し、品目はファイターを推進する。



機械移植の試み導入



生育状況



品種比較

普及活動のポイント

- ・JA ならけん（生産資材提供・一般的な管理指導）、民間機関（流通販売の相談・機械移植の試験導入）、農業水産振興課（推進方針の企画立案）と、連携・役割分担することにより効率化を図った。
- ・現地で展示圃を設け地域適応性を確認することで有望な品目・品種を選定した。

対象の変化

- ・機械移植機を導入する予定となった。
- ・次年度以降は適期収穫につとめ、栽培面積を拡大する予定。

対象者からのコメント

- ・栽培管理のポイントや適期収穫の重要性が理解できた

これからの活動ビジョン

- ・展示圃の結果、総合的に良好であったブロッコリーの品種ファイターを普及させる。
- ・収穫期を分散し、継続的な出荷を図るために定植時期をずらして対応する。

活動体制

